

第1学年国語科学習指導案

日 時 平成16年 9月 6日(月) 2校時
児 童 男子7名 女子4名 計11名
指 導 者 高 橋 利 明

1 単元名 くらべてよもう 「じどう車くらべ」

2 単元について

(1) 教材について

学習指導要領における第1学年及び第2学年の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気づきながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる」である。第1学年および第2学年の読みの力は、書かれていることの大体をとらえることが基礎となる。そのため、ただ漠然と読むのではなく、説明文の基本的なパターンである「問い 答え」の形式を押さえながら内容をとらえていくことが大切である。そこで、本単元でも、3種類の自動車について、働きとつくりの関係を考えながら内容の大体を読むことを指導していく。

本教材「じどう車くらべ」は、この時期の児童にとって興味・関心がある代表的なものの一つである自動車を取り上げた説明文である。既習の説明文教材では「問い 答え」という基本型の繰り返しで書かれていた。本教材では、それを発展させて最初に一括して読みの視点を示し、その後車種ごとの答えを示すという構成になっている。

本単元は、この時期の児童の一番好きな題材を取り上げ、主体的な理解、表現活動を促す教材構成であり、この教材の学習を通して楽しい説明文の読みを体得すると同時に、確かな言語能力を身につけることのできる教材であると考えられる。

(2) 児童について

ひらがなの読みにもなれていなかった児童が多かった実態から、1学期はひらがなに関して興味関心を高めるため、絵本や紙芝居の読み聞かせにも多く取り組んできた。また、ひらがなの学習が一通りすんでからは、家庭にも協力を依頼し、音読の取り組みも行ってきた。ただ、朝の読書活動の様子を見ると、いろいろな本を選んでじっくりと読書に取り組む児童がいる反面。本を選んでも挿絵のみを流して読んでいる姿も見られる。ひらがなの書きについても、かなり時間のかかる児童もおり、読み書きともに個人差が大きい。

また、説明文の学習については1学期、写真と文章で構成された教材から情報を読み取る学習をしてきている。ただ、書いてある内容の大体がわかっても読み取ったことを活用してクイズを作る段階になると難しさを感じる児童も多かった。

(3) 指導について

こうした児童の実態から、本単元の学習においてはまず、教材文を口をしっかりと開けてはっきりとした発音で読めるようにすることから始めたい。そのため、単元のはじめに音読の時間を多めに確保することはもちろんのこと、1時間1時間の学習の中にも多様な方法で音読する時間を位置づけて学習を進めたい。必要に応じて個別指導の時間をとりながら、音読に関する個人差を縮めて内容の読み取りに入っていくことができるようにしたい。

また、この単元を通して自動車図鑑作りの活動に取り組む。自分の図鑑を作るためにこの教材文を読むのだという目的意識と必要感を持って、この文章に取り組ませたい。さらに、読み取ったことを生かして自分なりに表現する活動も取り入れることで言語に関する感覚を高め確かに読む力につなげていきたいと考える。

3 単元目標

- (1) 3種類の自動車について、働き(しごと)と作りの関係を考えながら内容の大体を読む。(読イ)
 (2) 教材文のまねをして、簡単な組み立てを考えて書く。(書ウ)

4 指導計画

	時	指導目標	学習活動	重点指導の内容(個に応じた指導)
つかむ	1	全文を読み、内容の大体をつかむことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 教師の範読を聞く。 挿絵などを使いながら内容の確認をする。 知っている車について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車について自由に話しをさせながら自動車のしごとやつくりについて興味を持てるようにする。
	2	学習計画を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 自動車図鑑を作ることを知り、作り方を理解する。 学習計画を立てる。 音読練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車図鑑の見本を示しながら図鑑作りの確かなイメージが持てるようにする。 読み取りの視点について明らかにする。(しごと、つくり)音読についてはかなりの個人差が予想されるので必要に応じて個別指導の時間も設定する。
ふかめる	3	バスやじょうよう車のしごととつくりを読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> バスやじょうよう車のしごととつくりをワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 赤青鉛筆を活用してしごととつくりを意識させるようにする。 「そのために」という言葉をキーワードにしごととつくりが関わっていることに気づかせるようにする。 確かに内容が理解できるように多様な方法で音読ができるようにする。
	4	トラックのしごととつくりを読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> トラックのしごととつくりをワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 赤青鉛筆を活用してしごととつくりを意識させるようにする。 確かに内容が理解できるように多様な方法で音読ができるようにする。 挿絵などをもとに自分なりに考えたことも加えることができるようにさせる。
	5 本時	クレーン車のしごととつくりを読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> クレーン車のしごととつくりをワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 赤青鉛筆を活用してしごととつくりを意識させるようにする。 確かに内容が理解できるように多様な方法で音読ができるようにする。 挿絵などをもとに自分なりに考えたことも加えることができるようにさせる。
まとめる	6	はしご車について学習した構成をいかして簡単な説明文を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> はしご車のしごととつくりについて話し合う。 ワークシートを活用して簡単な説明を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ資料を準備し、情報を再確認しながらはしご車のつくり、しごとをまとめさせるようにする。 図鑑の書き方については一斉に再確認をしてからまとめさせるようにする。
ひろめる	7 8	自分の好きな自動車についての説明文を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の選んだ自動車について、しごと、つくりなどの説明を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな資料から選べるように資料を準備する。 教科書の語句も活用しながら書けるように援助をする。
	9	自分の自動車図鑑を完成することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 前書き、後書き、表紙を書いて本の形にまとめる。 自己評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 完成をしたら、これまでの学習でがんばったことをふり返ったり、交流させたりする。

5 本時の指導 (5/9)

- (1) 本時の目標 クレーン車のしごととつくりを読み取ることができる。

(2) 展開

過	学習活動と内容	全体指導	個に応じた指導	評価
つかむ	<p>1 前時の学習内容の想起。</p> <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>クレーン車のしごととつくりをまとめよう</p> </div> <p>3 学習の見通しを持つ。</p>	<p>挿絵を使いながら乗用車やトラックのしごととつくりを調べてきたことを思い出せるようにする。</p> <p>課題を全員で読んで確かめる。</p>	<p>意欲を持って学習できる雰囲気作りをする。</p> <p>板書も色分けをし、しごととつくりの2観点を読み取っていくことを意識させる。</p>	<p>課題をとらえることができたか。 (観察、対話)</p>
ふかめる	<p>4 学習場面を音読する。</p> <p>5 課題解決の学習をする。クレーン車のしごととつくりについて話し合う。</p>	<p>多様な方法で学習場面を音読する。</p> <p>難語句や重要語句の意味について再確認をする。</p> <p>自分で考え、その後発表し合うことを通して、理解した内容を共通のものとしていくようにする。「そのために」に着目させる。</p>	<p>自信を持って音読できるようにスモールステップで音読をさせる。 (T Y M)</p> <p>しごとには赤、つくりには青でサイドラインを引き、視覚的にもつかみやすくさせる。</p>	
まとめる・ひろめる	<p>6, 学習のまとめをする。</p> <p>(1)ワークシートにクレーン車のしごととつくりを視写する。</p> <p>(2)クレーン車のじまん話を書く。</p> <p>7, 次時の学習内容を把握する。</p>	<p>自動車図鑑の1ページ分になるように視写をしながらまとめる。</p> <p>クレーン車になったつもりで自分のしごとやつくりにかかわるじまん話を吹き出しに書く。</p>	<p>前時までの学習を想起させたり、赤線青線を手がかりにさせたりして取り组ませるようにする。</p> <p>模型などを活用して吹き出しを考えさせるようにする。</p> <p>書けない子に対しては対話をしながら考えさせるようにする。</p>	<p>クレーン車のしごととつくりがわかったか。 (ワークシート)</p> <p>自慢話を吹き出しに書くことができたか。 (ワークシート)</p>

(3) 本時の評価

具体的評価規準

A クレーン車のしごととつくりがわかり、それに関わる自慢話も自分なりに書いている。

B クレーン車のしごととつくりを見つけワークシートに書いている。

Bにいたらない子に対する児童への手だて

板書を活用してしごととつくりを書くことができるように個別に支援をする。

言語についての知識・理解・技能

カタカナの長音を正しく書くことができたか。

国語への関心・意欲・態度

進んで、自動車図鑑作りの活動に取り組んでいたか。